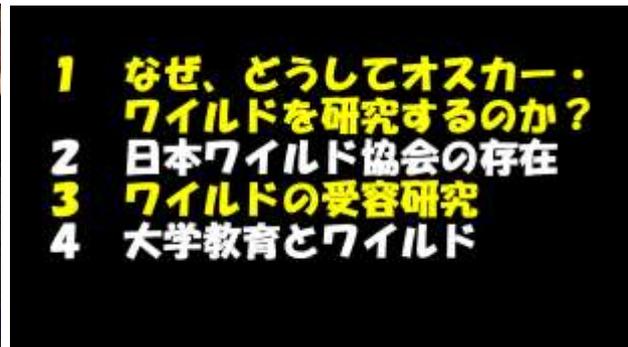


# オスカー・ワイルドと私～日本ワイルド協会、ワイルド受容研究、大学教育～



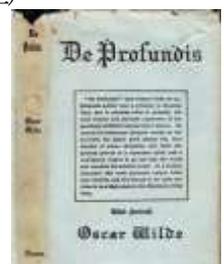
講演者：武蔵野学院大学 佐々木隆



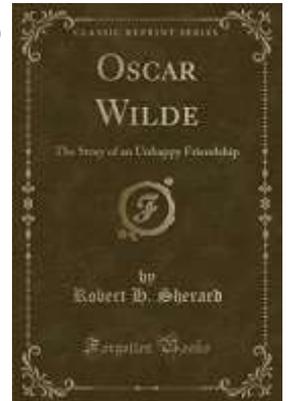
※パワーポイント資料の配布はありませんが、下記の関連年表をご覧ください。

## 関連抄年表

- 1883 『ジャパン・パンチ』(3月号)  
※日本で初めてワイルドが紹介される。  
“Oscar Wilde not having been able to come to Japan his envoy arrives instead”
- 1891 増田藤之助「美術の個人主義—ワスカル・ワイルドの論文抄訳」(『自由』5月28日)  
※『社会主義下の人間の魂』の抄訳による紹介。『Fortnightly Review』(1891年2月号)で発表されたものが同年5月に日本で抄訳とは翻訳・紹介されたことは当時としては驚くべきスピードではないか？当時の旅行案内では横浜からロンドンまで船で40～50日。
- 1892 坪内逍遙「シェークスピアの故國」(『早稲田文学』第25号)  
※「其他バーリー (J.M.Barrie) ワイルド (Oscar Wilde) あり又ヘンリー、ジェイムスの如きも嘗て脚本を試みることあり」(p.5)  
※以上3点が、ワイルド生存中に日本で紹介されている。
- 1900 ワイルド、11月30日にオテル・ダルザスで没
- 1902 マックス・ラインハルト演出『サロメ』
- 1903 無書子(安藤勝一郎)「デカダ論」(デカダン論)(『帝国文学』第9巻第5号)
- 1903 「世界には青年の外又何ものも存在せず」(『独逸語学雑誌』第12号、独逸語学雑誌社)  
※日本における最初の『ドリアン・グレイの肖像』の紹介。
- 1905 *De Profundis* 出版
- 1905 リヒャルト・シュトラウス作曲『楽劇 サロメ』
- 1905 片山正雄「神経質の文学」(以降連載あり)(『帝国文学』第11巻第6号)  
※ワイルドへの言及
- 1906 島村抱月・講演「英国の尚美主義」(→『明星』末歳第9号、1907年9月に掲載)  
※ワイルドへの言及



- 1906 夏目漱石「草枕」(『新小説』第11年第9号)  
 ※「基督は最高度に藝術家の態度を具足したるものなりとは、オスカー、ワイルドの説と記憶してゐる。」  
 (p.120)
- 1907 平田秃木・講演「英国詩界の現状」(→ 『明星』末歳第5号)  
 ※ワイルドへの言及
- 1907 森鷗外「脚本『サロメ』の略筋」(『歌舞伎』第88号)
- 1907 厨川白村「近英詩の時勢に対する関係を論ず」(『帝国文学』第13巻第10号～12号)
- 1908 平田秃木「詩人オスカー・ワイルド」(『東京二六新聞』、6月24日～26日)
- 1908 是影生「オスカー・ワイルドの戯曲」(『帝国文学』第14巻第7号)
- 1908 戸川秋骨「オスカー・ワイルドの戯曲の一節」(『文章世界』第3巻第9号)
- 1908 小林愛雄「オスカー・ワイルド詞華」(『帝国文学』第14巻第8号)  
 ※ワイルドの詩を翻訳しながら紹介したのはこれが最初か？
- 1908 岩野泡鳴「詩人オスカーワイルド」(『太陽』第14巻第12号～第13号)
- 1908 野口米次郎「ワスカー、ワイルドの復活理由」(『慶應義塾学法』第135号)
- 1909 本間久雄「人生も自然も芸術の模倣也」(『文章世界』第5巻第4号)
- 1909 岩野泡鳴「私行上から見たオスカーワイルド」(『趣味』第4巻第3号)  
 ※Robert Harborough Sherard. *Oscar Wilde: The Story of an Unhappy Friendship* (1902)の紹介。
- 1911 本間久雄「オスカア・ワイルド論」(『早稲田文学』第64号)
- 1911 本間久雄訳『獄中記』(『早稲田文学』第71号)
- 1911 内田魯庵「悲劇『革命婦人』」(『東京朝日新聞』11月6日～12月29日)  
 ※*Vera, or the Nihilists*の翻訳
- 1912 アーサー・グッドセール演出『サロメ』『フローレンスの悲劇』(アラン・ウィルキー一座：横浜ゲイティ座・帝国劇場) ※日本におけるワイルド劇初演
- 1913 本間久雄『高台より』(現代文芸叢書第21編) 春陽堂
- 1913 中村吉蔵訳／ローシー演技指導『サロメ』(芸術座：帝国劇場)
- 1913 うちがさき(内ヶ崎作三郎)「大思想家の婦人観」(『六合雑誌』第391号)  
 ※婦人問題特集号で、ワイルドが『ウーマンズ・ワールド』の編集長をしていたことが取り上げられる
- 1913 アンドレ・ジイド／和気律次郎訳『オスカア・ワイルド』 春陽堂
- 1913 本間久雄「『遊蕩児』に於いて作者は何を描かんとしたか」(『新潮』第18巻第5号)
- 1913 佐藤春夫、「『遊蕩児』の譯者に寄せて少し許りワイルドを論ず」(『スバル』(第5年第6号))
- 1914 貴志二彦『ワイルドの二重人格』 梁江堂書店・杉本梁江堂
- 1914 ノルドー(マックス・ノルダウ)／中島茂一訳／大日本文明協会編『現代の墮落』大日本文明協会事務所
- 1914 近衛文麿「The Soul of Man under Socialism」(『新思潮』第1巻第4号～第5号)  
 ※4号と5号で全訳となる。  
 ※岡義武『近衛文麿』(岩波書店、1972年6月)  
 「近衛はまた、京大大学中にオスカー・ワイルド(Oscar Wilde)の「社会主義の下における人間の魂」(The Soul of Man under Socialism)を訳し、それは第三次「新思潮」の大正三年五、六月号に連載されたが、この訳文も一因となって同誌五月号は発禁処分につされた。」(p.8)／「近衛は昭和二〇年の正月を重光葵、加瀬俊一とともに熱海で過ごしたが、その折に近衛は加瀬にオスカー・ワイルドの獄中記『深き淵より』(De Profundis)を貸してほしい、といった。そして、それを読んだ。そのとき彼が次ぎの箇所にアンダーラインをしたのが、死後発見された。それは、『世間は、私を余りに個人的である。と批評したものである。しかし、私の滅亡は、この人生における個人主義の過多によるものでなくて、むしろ過少から起こったものである。』というくだりであった。」(p.238)
- 1915 森鷗外訳／上山草人企画『サロメ』(近代劇協会：赤坂演伎座)
- 1915 中村吉蔵訳／島村抱月演出『新古典劇 サロメ』(芸術座：帝国劇場)
- 1917 ブレモン伯爵夫人／本間久雄訳「オスカア・ワイルド追懐記」(『早稲田文学』第140号)  
 ※Anna Comteese de Bremont. *Oscar Wilde and His Mother: Memir* (1911)の抄訳。



- 1920 日夏耿之介「ワイルド詩抄」(『早稲田文学』第170号)
- 1920 矢口達監修『ワイルド全集』(全5巻)天祐社
- 1923 本間久雄『唯美主義者 オスカア・ワイルド』春秋社
- 1923 内藤濯・宮原晃一郎共訳『サロメ』白水社  
※フランス語
- 1924 蘆谷重常『世界童話研究』早稲田大学出版部  
※「第3篇 藝術童話」の中の「第6章 ワイルドの童話」
- 1925 有島武郎氏遺筆「燕と王子」(『婦人の囚』第1巻第2号~第3号)
- 1925 芥川龍之介「『サロメ』その他」(『女性』第8巻第2号)
- 1925 白刀生「ワイルドの人格と唯美主義」(『変態心理』第55号)
- 1926 矢野峰人『近代文学史』第一書房  
※「第5章 デカダンの意義」「第6章 オスカア・ワイルド」「第7章 オオブレイ・ピアズリイ」
- 1926 千葉亀雄「ワイルドの新聞観(一)(二)」(『文芸講座』第3号、文藝春秋社)
- 1929 本間久雄『滞欧印象記』東京堂
- 1929 矢口達『哲人文豪 人生を語る』教文館
- 1930 三上於英吉「艶容萬年若衆」(『現代大衆文学全集』第40巻、平凡社)  
※『ドリアン・グレイの肖像』の江戸・元禄時代に設定を変えた翻案小説。
- 1934 本間久雄『英国近世唯美主義の研究』東京堂
- 1936 田辺南竜「清十郎酒屋」(『富士』(第9巻第1号、大日本雄弁会講談社)  
※口演(『模範金満家』の翻案)
- 1936 大西克礼編『大塚博士講義集』(第2巻)岩波書店  
※大塚保治は日本で初めて美学講座を担当。「文芸思潮論」の「唯美主義の思潮 後篇」でワイルドを扱う。  
1915年9月から1919年7月まで「文芸思潮論」の講義でワイルドを扱う。
- 1941 矢本貞幹「OSCAR WILDE の批評史的位罫——特に Pater との関係に就て」(『英文学研究』(第21巻第2号、日本英文学会)
- 1941 益田道三『近代唯美思潮研究』昭森社
- 1943 ホルブルック・ジャクソン/大塚宣也訳『近代英吉利文学論』肇書房
- 1950 高橋泰『ワイルド』研究社
- 1950 三島由紀夫「オスカア・ワイルド論」(『改造文学』第2巻第4号、改造社、4月)
- 1950 平井呈一訳『ワイルド選集』(全3巻)改造社(~1951)
- 1951 深沢正策『オスカー・ワイルド』萬里閣
- 1951 ワイルド/吉田健一訳『藝術論——藝術家としての批評家』要書房
- 1951 福田恆存『幽霊やしき』(『少年少女』第4巻第12号、中央公論社)  
※『カンタヴィルの幽霊』の翻案
- 1954 福田恆存訳/岡倉士朗演出『幽霊やしき』(民芸:一ツ橋講堂)  
※『カンタヴィルの幽霊』初演
- 1955 ホルブルック・ジャクソン/小倉多加志訳『イギリス世紀末文学』千城書店
- 1960 平井博『オスカー・ワイルドの生涯』松柏社
- 1960 『古酒』(サロメ特輯)(第3冊)新樹社
- 1960 日夏耿之介訳/三島由紀夫演出『サロメ』(文学座:東横ホール他)
- 1970 宮西豊逸訳『テレニイ』二見書房  
※Teleny: Or, The Reverse of the Medal: A Physiological Romance の翻訳。
- 1973 荒井良雄訳・演出『真面目が大切』(近代座:砂防会館ホール)  
※『真面目が大切』初演
- 1973 荒井良雄訳・演出『フロレンスの悲劇』『聖なる娼婦』(近代座・自由劇場)
- 1975 日本ワイルド協会設立
- 1975 荒井良雄訳『ワイルド悲劇全集』新樹社



- 1976 『会報』(第1号) 日本ワイルド協会
- 1976 山口哲生『仮面の倫理』シルフェ
- 1980 平井博『オスカー・ワイルド考』松柏社
- 1980 荒井良雄訳/村田元史・五十田安希演出『オスカーアーナ』(栃の美: 紀伊國屋ホール)
- 1980 西村孝次訳『オスカー・ワイルド全集』(全5巻) 青土社 (~1981)
- 1981 マルコム・ウィリアムソン作曲/平尾力哉・西沢敬一演出『オペラ 幸福な王子』(東京室内歌劇場: 第一生命ホール) ※『オペラ 幸福な王子』初演
- 1981 山田勝『世紀末とダンディズム』創元社
- 1984 『WILDE NEWSLETTER』(第1号) 日本ワイルド協会
- 1984 堀江珠喜『ワイルドの時代』JCA 出版
- 1984 堀江珠喜『サロメと世紀末都市』大阪教育出版
- 1988 西村孝次訳『オスカー・ワイルド全集』(全6巻) 青土社 (~1989)
- 1988 国立国会図書館、コンピュータ検索の導入
- 1989 山川鴻三『サロメー永遠の妖女』新潮社
- 1989 川崎淳之助・荒井良雄訳編『サロメと名言集』新樹社  
※『サロメ』はフランス語から
- 1990 イギリス・The Oscar Wilde Society 設立
- 1990 井村君江『『サロメ』の変容—翻訳・舞台』新書館
- 1990 竹邑類演出『ヘロデ王』(平岡紀子プロデュース: 青山円形劇場)
- 1990 『ユリイカ』(オスカー・ワイルド ヴィクトリアン・エイジの恋愛学) (第22巻第6号) 青土社
- 1990 ホルブルック・ジャクソン/澤井勇訳『世紀末イギリスの芸術と思想』松柏社
- 1991 木村克彦『ワイルド作品論』新樹社
- 1992 梅津義宣『オスカー・ワイルドの短編小説』旺史社
- 1992 スティーブ・バーコフ演出『サロメ』(銀座セゾン劇場: 銀座セゾン劇場)
- 1992 堀江珠喜『薔薇のサディズム』英潮社
- 1994 伏屋順仁演出『サロメ』(テアトル・デュ・タン、三百人劇場)
- 1994 大川裕『美の冒険と殉教』大川和子
- 1995 1月3日、ハイマーケットのシアター・ロイヤル楽屋入口にワイルドの戯曲上演100年を記念する円形プラークが入る。
- 1995 1月17日、阪神・淡路大震災
- 1995 2月14日、ウェストミンスター・アベイの詩人コーナー西側窓のステンドグラスにワイルドの名前が入る。
- 1995年 矢口達監修『ワイルド全集』(全5巻) 日本図書センター (復刻)
- 1996 国立国会図書館ホームページ公開
- 1997 中村暁脚本・演出『ドリアン・グレイの肖像』(宝塚歌劇団星組: 日本青年館大ホール)
- 1997 山田勝編/日本ワイルド協会協力『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店
- 1997 ブライアン・ギルバート監督『オスカー・ワイルド』(映画)
- 1998 Karl E. Beckson. *The Oscar Wilde Encyclopedia*. AMS Press
- 1997 国立国会図書館、和図書OPACをインターネットで公開
- 1999 清水義和『ショー・シェークスピア・ワイルド移入史』文化書房博文社
- 1999 山田勝『オスカー・ワイルドの生涯』日本放送出版協会
- 1999 Kinoshita, Yukiko. *Art and Society*. Seijo Shobo
- 1999 玉井暁『イギリス世紀末におけるテキストと言語—ペイターとワイルド』海川企画出版部
- 1999 『オスカー・ワイルド研究』(第1号) 日本ワイルド協会
- 1999 佐々木隆「日本のワイルド受容の問題点と展望」(日本英語文化学会編『異文化の諸相』朝日出版社)
- 2000 『ユリイカ』(オスカー・ワイルドの世界) (第32巻第6号) 青土社
- 2000 堀江珠喜『ワイルドとホームズとサロメのレビュー世界』北宋社
- 2000 アモール/角田信恵訳『オスカー・ワイルドの妻』彩流社



- 2001 『英語青年』(特集:追悼オスカー・ワイルド)(第146巻第11号) 研究社
- 2001 井村君江・佐々木隆(対談集)『ワイルドとの出会い』日本ワイルド協会
- 2001 ノックス/玉井暁訳『オスカー・ワイルド』青土社
- 2001 利倉隆『エロスの美術と物語 魔性の女と宿命の女』美術出版社
- 2001 工藤庸子『サロメ誕生』新書館
- 2001 伊藤勲『ワイルドとペイター』沖積社
- 2002 国立国会図書館、雑誌記事索引をNDL-OPACにより全件提供開始
- 2002 村上昌美『創造の人間像の諸相』村上昌美、村上ミサ子
- 2003 丸橋良雄『風習喜劇とワイルド—ワイルド喜劇の面白さ』京大出版センター
- 2003 梅津義宣『オスカー・ワイルド論叢』宝文堂
- 2003 井村君江『サロメ図像学』あんず堂
- 2003 Kaneda, Masahide. *Beyond the Border: Language and Sexuality in Oscar Wilde's Work*. 博士論文
- 2003 大淵利春『オスカー・ワイルド研究—芸術と人生の問題を中心に』博士論文
- 2004 河内恵子『深淵の旅人たち—ワイルドとF・M・フォードを中心に』慶應義塾大学出版会
- 2005 鈴木ふさ子『オスカー・ワイルドの曖昧性—デカダンスとキリスト教的要素』開文社出版
- 2005 カロリーネ・グルーバー演出 オペラ『フィレンツェの悲劇』(二期会オペラ振興会:新国立劇場オペラ劇場)
- 2005 木村信司脚本・演出/アン・クロズウェル脚本・作詞『Ernest in Love』(宝塚歌劇団月組、梅田芸術劇場)
- 2007 Hidaka, Maho. *Theatrical World of Oscar Wilde*. Oregon: Book East (海外出版)(参考)
- 2007 Miyata, Rinako. *Oscar Wilde and Class*. Book East (海外出版)(参考)
- 2007 佐々木隆『日本ワイルド総覧』イーコン
- 2008 大鐘敦子『サロメのダンスの起源—フローベール・モロー・マラルメ・ワイルド』慶應義塾大学出版会
- 2008 佐々木隆『日本ワイルド総覧(増補版)』イーコン
- 2009 佐々木隆『日本ワイルド研究書誌』イーコン
- 2009 グレース宮田『オスカー・ワイルドに学ぶ人生の教訓』サンマーク出版
- 2011 東日本大震災
- 2011 梅津義宣『視線と表象と文体—オスカー・ワイルド研究』笹氣出版印刷
- 2013 新谷好『英国世紀末文化とオスカー・ワイルド』英宝社
- 2013 角田信恵『オスカー・ワイルドにおける倒錯と逆説』彩流社
- 2013 木村克彦『ワイルドとペーター』英光社
- 2013 宮崎かすみ『オスカー・ワイルド—「犯罪者」にして芸術家』中央公論新社
- 2013 藤井繁『予感 オスカー・ワイルドの栄光と悲惨』コプレス
- 2013 富士川義之他編『オスカー・ワイルドの世界』開文社
- 2014 佐々木隆『日本ワイルド研究書誌(増補版)』イーコン
- 2014 モイル/那須省一訳『オスカー・ワイルドの妻コンスタンス』書肆侃侃房
- 2015 佐々木隆『日本オスカー・ワイルド受容研究』(前編)(後編)
- 2015 笹々井啓『ヴィクトリアン・ダンディ:オスカー・ワイルドの服飾観と「新しい女」』勁草書房
- 2017 伊藤勲『英国唯美主義と日本』論創社
- 2018 新谷好『オスカー・ワイルドの文学作品』英宝社
- 2018 ルパート・エベレット監督『さすらいの人 オスカー・ワイルド』(映画)
- 2019 富士川義之訳『ドリアン・グレイの肖像』(岩波文庫)岩波書店
- 2019 伊藤勲『ペイター藝術とその変容—ワイルドと西脇順三郎』論創社
- 2019 マーリン・ホランド/前沢浩子訳『オスカー・ワイルドとコーヒータム』三元社
- 2020 富士川義之訳『童話集 幸福な王子 他八篇』(岩波文庫)岩波書店
- 2020 倉林秀男・原田範行『オスカー・ワイルドで学ぶ英文法』アスク出版
- 2020 宮崎かすみ編訳『新編獄中記 悲哀の道化師の物語 オスカー・ワイルド書簡集』中央公論新社
- 2021 村上昌美『人間・実行・オスカー・ワイルド—その内部創造世界への小論と読感文講評』22世紀アート



## 日本におけるオスカー・ワイルド活動（研究状況）

（佐々木隆調査概略 2022年7月31日現在）

（佐々木隆編『日本ワイルド研究書誌（増補版）』（イーコン、2014年9月）の追加調査含む）

年代	研究書等(単独)	博士論文(主)	博士論文(部分)	論文(主)	日本ワイルド協会	備考
1945～1954	1	0	0	19	—	ワイルド没後50年
1955～1964	1(特1)	0	0	47	—	
1965～1974	0	2	0	77	—	
1975～1984	5(特2)	1	0	145	会報3、WN1	日本ワイルド協会設立
1985～1994	1(特1)	0	1	180	WN10	
1995～2004	20(特3)	4	3	220	WN4、OW6	ワイルド没後100年
2005～2014	22(特1)	4	0	144	OW7	
2015～現在	6	2	0	26	OW7	
合計	56(特8)冊	13本	4本	858本	38冊	

※研究書等(単独)では書名ではなく、その内容による。博士論文、科研費、論文も同様であるが、オスカー・ワイルドあるいは作品名等がタイトルに使用されていることが多い。世紀末、唯美主義が中心となりワイルドの扱いが主でない場合には今回は取り上げていない。博士論文は学位授与年による。なお雑誌の特集でワイルドやワイルドの作品が掲載されている場合には研究書等(単独)のところに(特3)のように示した。

事例 4(特3) この場合には研究書4、雑誌特集3となる。

※論文の基準として学会誌、大学・研究機関の紀要、研究会誌等に掲載された本数。

※日本ワイルド協会のところでは協会が発行している『会報』『Wilde Newsletter』『オスカー・ワイルド研究』(省略して(会報)、(WN)、(OW)とした)については論文数や記事数ではなく、発行された冊数を取り上げた。

## 日本におけるオスカー・ワイルド活動（劇上演・朗読・オペラ・バレエ・コンサート等）

（佐々木隆調査概略 2022年7月31日現在）

（佐々木隆編『日本ワイルド総覧（増補版）』（イーコン、2008年2月）の追加調査含む）

年代	ワイルド劇上演	朗読・朗読劇	オペラ・歌劇	バレエ・ダンス	コンサート	備考
1945～1954	1	0	0	3	0	ワイルド没後50年
1955～1964	2	0	2	1	0	
1965～1974	5	0	0	3	0	
1975～1984	13	0	3	2	1	日本ワイルド協会設立
1985～1994	15	5	5	6	2	
1995～2004	30	14	6	5	2	ワイルド没後100年
2005～2014	20	12	12	5	3	
2015～現在	18	1	3	1	1	
合計	104	32	31	26	7	

※同じ年の巡回公演、再演は1として数え、年がまたがる場合には2として数えた。コンサートの場合には曲目が1つでも含まれているものが確認できた場合には1として数えた。

※ワイルド作品ではないが、ワイルド作品に関連するものもワイルド劇に含めた。『女優 松井須磨子』等。

※ミュージカル・人形劇はワイルド劇に含めた。

※コンサートには演奏会・合唱も含む。

付録 ワイルド研究・周辺理解早見表 (抄)

(佐々木隆編『日本ワイルド研究書誌 (増補版)』(イーコン、2014年9月)の追加調査含む)

(1) ワイルド研究	7
(2) ワイルド事典・書誌等	10
(3) 博士論文	11
(4) 『サロメ』に関する研究	12
(5) 詩人としてのワイルド	14
(6) 世紀末・デカダンス	15
(7) マックス・ノルダウ	17
(8) 唯美主義	17
(9) ラファエル前派	19
(10) ジョン・ラスキン	20
(11) ウィリアム・モリス	21
(12) ウィリアム・モリス書誌	22
(13) オーブリー・ビアズリー	22
(14) 美学	23
(15) 日本の美学受容史	24
(16) ダンディズム	25
(17) 同性愛	26
(18) 日本西欧近代心理学受容史	27
(19) アンドレ・ジイド	27
(20) 本間久雄	28
(21) 芥川龍之介	29
(22) 谷崎潤一郎	30
(23) 佐藤春夫	31
(24) 三島由紀夫	31
(25) 比較文学	33



## (1) ワイルド研究

- 1911年 3月 本間久雄「オスカア・ワイルド論」(『早稲田文学』第64号, 東京堂書店)
- 1913年 2月 本間久雄『高台より』(現代文芸叢書第21編) 春陽堂
- 1913年 12月 『創造』(第39号) 創造社
- 1914年 9月 貴志二彦『ワイルドの二重人格』梁江堂書店・杉本梁江堂
- 1923年 10月 本間久雄『唯美主義者 オスカー・ワイルド』春秋社
- 1934年 5月 本間久雄『英国近世唯美主義の研究』東京堂
- 1935年 1月 高橋泰『ワイルド』研究社
- 1950年 4月 三島由紀夫「オスカー・ワイルド論」(『改造文学』第2巻第4号)
- 1951年 3月 深沢正策『オスカー・ワイルド』萬里閣
- 1957年 10月 吉田健一「ワイルド」(『近代文学論』垂水書房)
- 1960年 4月 平井博『オスカー・ワイルドの生涯』松柏社
- 1976年 1月 山口哲生『仮面の倫理』シルフェ
- 1980年 6月 高橋泰『ワイルド』研究社(復刻版)
- 1980年 7月 平井博『オスカー・ワイルド考』松柏社
- 1980年 9月 『ユリイカ』(増頁特集オスカー・ワイルド)(第12巻第10号) 青土社
- 1981年 4月 山田勝『世紀末とダンディズム』創元社
- 1984年 3月 堀江珠喜『ワイルドの時代』JCA出版
- 1984年 10月 堀江珠喜『サロメと世紀末都市』大阪教育出版
- 1989年 7月 山川鴻三『サロメ—永遠の妖女』新潮社
- 1990年 4月 井村君江『「サロメ」の変容—翻訳・舞台』新書館
- 1990年 5月 『ユリイカ』(オスカー・ワイルド ヴィクトリアン・エイジの恋愛学)(第22巻第6号) 青土社
- 1991年 6月 木村克彦『ワイルド作品論』新樹社
- 1992年 4月 梅津義宣『オスカー・ワイルドの短篇小説』旺史社
- 1992年 4月 堀江珠喜『薔薇のサディズム』英潮社
- 1994年 6月 大川裕『美の冒険と殉教』大川和子
- 1997年 10月 山田勝編/日本ワイルド協会協力『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店
- 1999年 3月 清水義和『ショー・シェークスピア・ワイルド移入史』文化書房博文社
- 1999年 11月 山田勝『オスカー・ワイルドの生涯』日本放送出版会
- 1999年 11月 玉井暁『イギリス世紀末文学におけるテキストと言語—ペイターとワイルド』海川企画出版部
- 1999年 11月 『世界の文学』(オスカー・ワイルド、ユイスマンスほか)(週刊朝日百科18) 朝日新聞社
- 1999年 11月 Kinoshita, Yukiko. *Art and Society*. Seiji Shobo.
- 2000年 4月 『ユリイカ』(総特集:オスカー・ワイルドの世界)(第32巻第6号) 青土社
- 2000年 8月 堀江珠喜『ワイルドとホームズとサロメのレビュー世界』北宋社

- 2000年12月 アン・クラーク・アモール／角田信恵訳『オスカー・ワイルドの妻』彩流社
- 2001年2月 『英語青年』（特集：追悼オスカー・ワイルド）（第146巻第11号）研究社
- 2001年3月 メリッサ・ノックス／玉井暲訳『オスカー・ワイルド—長くて、美しい自殺』青土社
- 2001年3月 利倉隆『エロスの美術と物語 魔性の女と宿命の女』美術出版社
- 2001年5月 工藤庸子『サロメ誕生』新書館
- 2001年10月 伊藤勲『ワイルドとペイター』沖積社
- 2002年4月 村上昌美『創造的人間像の諸相』村上昌美、村上ミサ子
- 2003年4月 丸橋良雄『風習喜劇とワイルド』京大出版センター
- 2003年8月 梅津義宣『オスカー・ワイルド論叢』宝文堂
- 2003年12月 井村君江『サロメ図像学』あんず堂
- 2004年12月 河内恵子『深淵の旅人たち—ワイルドとF・M・フォードを中心に』慶應義塾大学出版会
- 2005年3月 鈴木ふさ子『オスカー・ワイルドの曖昧性』開文社出版
- 2006年3月 Ogane, Atsuko. *La genèse de la danse de Salomé : 1' 《appareil scientifique》 et la symbolique polyvalente dans Herodias de Flaubert.* Presses Universitaires de Keio
- 2006年11月 佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究（明治編）』イーコン
- 2007年 Hidaka, Maho. *Theatrical World of Oscar Wilde.* Book East) (海外出版)  
(参考)
- 2007年 Miyata, Rinako. *Oscar Wilde and Class.* Book East (海外出版) (参考)
- 2007年11月 佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究（大正編）』イーコン
- 2008年2月 Kaneda, Masahide. *Displacing the Border: Oscar Wilde's Textual and Sexual Politics.* Eihosha
- 2008年3月 『APIED』（第12号）（特集：オスカー・ワイルド）アピエ社
- 2008年9月 大鐘敦子『サロメのダンスの起源—フローベール・モロー・マラルメ・ワイルド』慶應義塾大学出版会
- 2008年11月 佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究（本間久雄）』イーコン
- 2009年7月 佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究（昭和戦前編）』イーコン
- 2010年2月 佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究（昭和戦後編）』イーコン
- 2011年3月 梅津義宣『視線と表象と文体—オスカー・ワイルド研究』笹氣出版印刷
- 2013年2月 新谷好『英国世紀末文化とオスカー・ワイルド』英宝社
- 2013年3月 角田信恵『オスカー・ワイルドにおける倒錯と逆説』彩流社
- 2013年5月 富士川義之・玉井暲・河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社
- 2013年10月 木村克彦『ワイルドとペーター』英光社
- 2013年11月 宮崎かすみ『オスカー・ワイルド』中央公論新社
- 2013年12月 佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究（現代編）』イーコン

- 2013年 12月 藤井繁『予感 オスカー・ワイルドの栄光と悲惨』コプレス
- 2014年 11月 フラニー・モイル／那須省一訳『オスカー・ワイルドの妻コンスタンス』書肆侃侃房
- 2015年 2月 笹々井啓『ヴィクトリアン・ダンディ：オスカー・ワイルドの服飾観と「新しい女」』勁草書房
- 2015年 7月 佐々木隆『日本オスカー・ワイルド受容研究』（前編）（後編）多生堂
- 2017年 9月 伊藤勲『英国唯美主義と日本』論創社
- 2018年 12月 新谷好『オスカー・ワイルドの文学作品』英宝社
- 2019年 9月 伊藤勲『ペイター藝術とその変容—ワイルドと西脇順三郎』論創社
- 2019年 12月 マーリン・ホランド／前沢浩子訳『オスカー・ワイルドとコーヒータム』三元社
- 2021年 10月 村上昌美『人間・実行・オスカー・ワイルド—その内部創造世界への小論と読感文講評』22世紀アート

## （2）ワイルド事典・書誌等

- 1934年 5月 本間久雄「参考書目の事」（『英国近世唯美主義の研究』東京堂）
- 1954年 3月 平井博「Bibliography of the Reference Books on Oscar Wilde」（『福島大学学芸学部論集』第5集）
- 1960年 3月 平井博「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌（その1）」（『福島大学学芸学部集』人文科学、第13集の2）
- 1960年 5月 福田君江「日本におけるワイルド（一）」（古酒同人会編『古酒』第3冊、サロメ輯、新樹社）
- 1960年 6月 平井博「参考文献書誌」（『オスカー・ワイルドの生涯』松柏社）
- 1960年 8月 福田君江「日本におけるワイルド（二）」（古酒同人会編『古酒』、4冊、樹社）
- 1963年 3月 平井博「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌（其二）」（『福島大学学芸学部論集』人文科学、第14集の2）
- 1966年 11月 平井博「日本におけるオスカー・ワイルド研究書誌」（『日本英学史研究会研究報告』第62号）  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jeiken1964/1966/62/1966\\_62\\_en1/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jeiken1964/1966/62/1966_62_en1/_pdf/-char/ja)（2022年8月10日アクセス）
- 1974年 3月 井村君江「日本に於ける『サロメ』—明治及び大正時代」（『鶴見大学紀要』（第2部、外国語・外国文学編、第11号、鶴見大学）
- 1976年 3月 井村君江「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌」（『鶴見大学紀要』第2部、外国語・外国文学編、第13号）
- 1976年 5月 本間久雄編「ワイルド研究資料目録」日本ワイルド協会
- 1980年 7月 平井博「日本におけるOscar Wilde 書誌」（『オスカー・ワイルド考』松柏社）
- 1982年 11月 『Oscar Wilde 文献目録』神奈川県立外語短大図書館

- 1989年 11月 実践女子大学図書館編『実践女子大学図書館所蔵 オスカー・ワイルド文献目録』  
実践女子大学図書館
- 1990年 4月 井村君江「日本における『サロメ』書誌<明治・大正時代>」／戦後の主な『サロメ』上演一覧」(井村君江『「サロメ」の変容—翻訳・舞台』新書館)
- 1996年 10月 川戸道昭、榊原貴教編「明治翻訳文学年表 ワイルド編」(『ワイルド集』明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》第10巻、大空社)
- 1997年 10月 山田勝編／日本ワイルド協会協力『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店
- 2003年 川戸道昭, 中林良雄, 榊原貴教 『大正期翻訳文学画像集成』(第6巻)(ワイルド集) ナダ出版センター
- 2007年 2月 佐々木隆『日本ワイルド総覧』イーコン
- 2008年 2月 佐々木隆『日本ワイルド総覧(増補版)』イーコン
- 2009年 2月 佐々木隆『日本ワイルド研究書誌』イーコン
- 2013年 5月 玉井暲「オスカー・ワイルド書誌」(富士川義之・玉井暲・河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社)
- 2014年 9月 佐々木隆『日本ワイルド研究書誌(増補版)』イーコン

### (3) 博士論文

- 1936年 4月 本間久雄『英国近世唯美主義の研究』早稲田大学、文学博士
- 1967年 2月 平井博『オスカー・ワイルドの生涯』立正大学、文学博士
- 1973年 4月 小倉阜『仮面の真理—ポーズの作家オスカー・ワイルド』立正大学、文学博士
- 1982年 3月 田中珠喜『『サロメ』と世紀末都市：ワイルドに於ける悪の系譜』神戸大学、学術博士
- 1987年 10月 升本匡彦『横浜ゲーテ座—明治・大正の西洋劇場』名古屋大学、文学博士  
※ただし、受容に関する部分的なもの
- 1995年 1月 仁木勝治『フォークナーの「世紀末」と「ギリシャ壺」』立正大学、博士(文学)  
※ただし、部分的。
- 1995年 3月 荒木映子『自己を書くこと：エリオットとイエイツにおける生と死のレトリック』大阪市立大学、博士(文学)  
※ただし、部分的に『サロメ』を扱う。
- 1998年 3月 日賀野友子『オーブリー・ヴィンセント・ピアズリー研究—テキストを超える挿絵』筑波大学、博士(芸術学)  
※ただし、部分的なもの
- 2000年 4月 玉井暲『イギリス世紀末文学におけるテキストと言語—ペイターとワイルド』大阪大学、博士(文学)
- 2003年 3月 大淵利春『オスカー・ワイルド研究—芸術と人生の問題を中心に』博士論文、駒澤大学、博士(英文学)

- 2003年 3月 鈴木ふさ子『オスカー・ワイルドの曖昧性：その作品にみられるキリスト教的要素とデカダンス』フェリス女学院大学、博士（文学）
- 2004年 3月 Kaneda, Masahide. *Beyond the border: Language and Sexuality in Oscar Wilde's Work*. 大阪大学、博士（文学）
- 2005年 2月 Ogane, Atsuko. *L' «Appareil scientifique» et la symbolique polyvalente: le rite du sacrifice ou la danse de Salome dans Herodias de Gustave Flaubert*. 慶應義塾大学、博士（文学）
- 2005年 3月 Kiriyama, Keiko. *Studies of the fantastic boundary in Oscar Wilde and Marie Corelli*. 大阪大学、博士（文学）
- 2007年 3月 Miyata, Rinako. *Oscar Wilde and Class*. 専修大学、博士（文学）
- 2007年 3月 小坂咲子『リヒャルト・シュトラウスの管弦楽法研究：「管弦楽法論」に基づく《サロメ》分析と未完成交響詩《ドナウ》補作から』東京藝術大学、博士（音楽）
- 2015年 3月 Hidaka, Maho. *A Study of Oscar Wilde Adaptations of His Works*. 京都大学、博士（人間・環境学）
- 2018年 3月 宮本裕司『オスカー・ワイルド文学における芸術至上主義と宗教意識の相克』日本大学、博士（総合社会文化）

#### （4）『サロメ』に関する研究

- 1922年 9月 長沼重隆「『サロメ』と聖書の考察」（『新小説』第27年第10巻、春陽堂）
- 1960年 5月 『古酒』（サロメ特輯）（第3冊）新樹社
- 1960年 12月 石田章「Saloméの戯曲構成」（『同志社女子大学学術研究年報』第11巻、同志社女子大学）
- 1961年 3月 板倉保「Saloméの考察」（『武蔵野女子学院短期大学紀要』第1号、武蔵野女子学院短期大学）
- 1963年 12月 高階秀爾「サロメーイコノロジー的試論」（『美術史』第51号、美術史学会）
- 1964年 12月 井村君江「サロメ伝説について一問題史考察」（『鶴見女子大学紀要』第2号、鶴見女子大学）
- 1972年 2月 川成由美子「オスカー・ワイルドの快楽観 その苦悩観との関係に関する考察——『サロメ』を中心として」（『SELLA』第1号、白百合女子大学英文学会）
- 1972年 12月 井村君江「Oscar Wilde の Salome 第1部 作品の背景」（『鶴見女子大学紀要』第10巻、鶴見女子大学）
- 1972年 12月 嶺金治「『サロメ』について」（『苫小牧駒沢短期大学研究紀要』第7号、苫小牧駒沢短期大学）
- 1974年 3月 井村君江「日本に於ける『サロメ』—明治及び大正時代」（『鶴見大学紀要』（第2部、外国語・外国文学編、第11号、鶴見大学）
- 1974年 12月 山口哲生「わがサロメ・わが『サロメ』」（『四国学院大学論集』第31号、四国学院大学）

大学文化学会)

- 1984年 2月 一瀬正己「日本でのサロメ系譜①～⑮」(『本の街』第85号、4月 41号～第55号, 明光企画)
- 1984年 10月 堀江珠喜『サロメと世紀末都市』大阪教育出版
- 1989年 7月 山川鴻三『サロメ—永遠の妖女—』新潮社
- 1992年 4月 山本澄子「大正期とイギリス演劇—『サロメ』移入考—」(山本澄子『英米演劇移入考』文化書房博文社)
- 1990年 4月 井村君江『「サロメ」の変容—翻訳・舞台』新書館
- 2000年 3月 斉藤恵子「サロメの系譜—聖書の時代から現代まで」(『大妻比較文化』第1号、大妻女子大学比較文化学部)
- 2001年 3月 利倉隆『エロスの美術と物語—魔性の女と宿命の女』美術出版
- 2001年 3月 Sato, Miki. Higashigawa, Yoichi. “A Comparative Study of Salome: On the Transfer of Mood from the Original English Version to the Japanese Translation” (『北海道教育大学紀要』第52巻第1号、人文科学・社会科学編、北海道教育大学)
- 2001年 5月 工藤庸子『サロメ誕生』新書館
- 2003年 6月 佐藤美希「文化による『サロメ』の変容—日本での受容をめぐって」(『北海道英語英文学』第48号、日本英文学会北海道支部)
- 2003年 9月 北村麻由美「『サロメ』—歪んだ偶像」(『英知大学大学院論叢』第5巻第1号、英知大学大学院人文科学研究科)
- 2003年 12月 井村君江『サロメ図像学』あんず堂
- 2005年 3月 西川彩「二つの影を持つサロメ」(『Evergreen』第27号、愛知淑徳大学英文学会)
- 2007年 1月 村田三喜子「サロメとヨカナーンのシメントリー」(『立命館英米文学』第16号、立命館大学英米文学会)
- 2007年 2月 北村麻由美「『サロメ』における二重の象徴—重層的イメージがもたらす効果」(『サピンチア』第41巻、聖トマス大学)
- 2008年 3月 湯原かの子「オスカー・ワイルド『サロメ』—世紀末の夢想」(『上智大学仏語・仏文学論集』通号第42号、上智大学フランス文学科)
- 2008年 9月 大鐘敦子『サロメのダンスの起源—フローベール・モロー・マラルメ・ワイルド』慶應義塾大学出版会
- 2009年 3月 高田一樹「支配をめぐる葛藤としての詩劇—三島由紀夫と『サロメ』」(『比較文学年誌』第45巻、早稲田大学比較文学研究室)
- 2010年 1月 島原知大「オスカー・ワイルド『サロメ』論—ナルシストとしてのサロメ」(『駿河台大学論集』第39巻、駿河台大学)
- 2010年 3月 菊池せつ子「オスカー・ワイルド『サロメ試論』」(『武蔵丘短期大学紀要』第17巻、武蔵丘短期大学)
- 2011年 10月 橋本由紀子「フローベール『ヘロディア』とワイルド『サロメ』の比較研究—二人の

- 「サロメをめぐる感覚表現」(『国際関係研究』(第 32 巻第 1 号) 日本大学国際関係学部国際関係研究所)
- 2013 年 12 月 藤井繁「(詩劇)『サロメ』の解説の多様性とは？」(『予感 オスカー・ワイルドの栄光と悲惨』コプレス)
- 2013 年 12 月 佐々木隆「『サロメ』研究」(佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究(現代編)』イーコン)
- 2014 年 1 月 結城史郎「オスカー・ワイルドの『サロメ』における宿命の女と被虐性」(『言語と文化』(第 11 号) 法政大学言語・文化センター)
- 2015 年 12 月 坪川成「視線と幻想—ワイルドとシュトラウスのサロメ像—」(『待兼山論叢』第 49 号、大阪大学大学院文学研究科)
- 2021 年 8 月 斉藤恵子「サロメの系譜 聖書の時代から現代まで」(斉藤恵子『聖書と女性たち』論創社)

#### (5) 詩人としてのワイルド

- 1908 年 6 月 平田禿木「詩人オスカー・ワイルド」(『東京二六新聞』6 月 24 日～26 日)
- 1908 年 8 月 岩野泡鳴「詩人オスカーワイルド」(『太陽』第 14 巻第 12 号)
- 1908 年 10 月 岩野泡鳴「詩人オスカーワイルド」(『太陽』第 14 巻第 13 号)
- 1935 年 1 月 高橋泰『ワイルド』(研究社英米文学評伝叢書) 研究社
- 1981 年 7 月 堀江珠喜「オスカー・ワイルドの『スフィンクス』—翻訳と詩の構成」(『阪南論集』人文・自然科学編, 第 16 巻第 3・4 号)
- 1984 年 3 月 上條真一「オスカー・ワイルドの『ラヴェンナ』逍遙」(『飯山論叢』第 1 巻第 1 号, 東京工芸大学女子短期大学部)
- 1986 年 12 月 梅津義宣「Oscar Wilde の詩における色彩の象徴性—2—Golden, Yellow, Brown, Tawny, Purple, Pale, Pallid, Wan」(『尚絅女学院短期大学研究報告』第 33 集)
- 1989 年 3 月 岩永弘人「オスカー・ワイルドの初期の詩について—2つのソネットを手がかりに」(『英米文学』第 49 号, 立教大学文学英米文学研究室)
- 1989 年 12 月 木村克彦「『レディング牢獄の唄』試論」(『英米文学語学研究会論集』第 3 号, 英米文学語学研究会)
- 1992 年 12 月 山田正章「Wilde の詩集管見」(『Asphodel』第 27 号, 同志社女子大学)
- 1994 年 3 月 Kaijima, Takashi. “Oscar Wilde and Wordsworth: Wordsworth’s Influence on Wilde and His Works”. (『熊本大学英語英文学』第 37 号)
- 1995 年 3 月 Kaijima, Takashi. “Oscar Wilde and John Keats”. (『比治山大学現代文化部紀要』第 1 号)
- 1996 年 3 月 Kaijima, Takashi. “The Ballad of Marsyas: A Critical Study of The Ballad of Reading Gaol”. (『比治山大学現代文化部紀要』第 2 号)
- 1996 年 3 月 伊藤勲「詩人としてのワイルド」(『東京成徳短期大学紀要』第 29 号)

- 1996年 3月 堀江珠喜「ワイルドとキーツ」(『大阪府立大学紀要』人文・社会科学, 第44号)
- 1996年 3月 岩永弘人「詩人ワイルドにとってのキーツ殉教者と表現者のほざまで」(『東京農業大学一般教育学術集報』第26号)
- 2002年 5月 土屋繁子「詩人オスカー・ワイルド」(中央大学人文科学研究所編『埋もれた風景たちの発見』中央大学出版部)
- 2005年 3月 鈴木ふさ子「Oscar Wilde の Poems をめぐって—不協和音としてのキリスト教—」(『Ferris Wheel』第8号、フェリス女学院大学大学院人文科学研究科英米文学英語研究会)
- 2006年 11月 佐々木隆「詩人としてのワイルド紹介」(『書誌から見た日本ワイルド受容研究(明治編)』イーコン)
- 2008年 1月 今村潔「オスカー・ワイルドの詩に見られる色彩表現」(『龍谷紀要』第29巻第2号、龍谷大学龍谷紀要編集委員会)
- 2008年 3月 貝嶋崇「詩人オスカー・ワイルド」(『APIED』第12号、特集:オスカー・ワイルド、アピエ社)
- 2013年 5月 貝嶋崇「オスカー・ワイルドの詩—詩人ワイルドの原点」(富士川義之・玉井暉・河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社)
- 2013年 12月 藤井繁「(詩) ワイルドに「詩」の発展があるのか?」(『予感 オスカー・ワイルドの栄光と悲慘』コプレス)

#### (6) 世紀末・デカダンス

- 1903年 5月 無書子(安藤勝一郎)「デカダ論」(『帝国文学』、第9巻第5号、大日本図書)
- 1905年 6月 片山正雄「神経質の文学」(『帝国文学』、第11巻第6号、大日本図書)
- 1905年 7月 片山正雄「神経質の文学(承前)」(『帝国文学』第11巻第7号、大日本図書)
- 1905年 8月 片山正雄「神経質の文学(承前)」(『帝国文学』第11巻第8号、大日本図書)
- 1905年 9月 片山正雄「神経質の文学(承前)」(『帝国文学』第11巻第9号、大日本図書)
- 1909年 6月 戸澤姑射「デカダンス及び耽溺とは何ぞ此不健全なる思潮に対する覚悟」(『龍南』会雑誌』第131号、龍南会)
- 1914年 3月 マックス・ノルダウ/中島茂一訳/大日本文明協会編『現代の墮落』大日本文明協会事務所
- 1915年 2月 岩野泡鳴『悪魔主義の思想と文芸』天弦社
- 1921年 8月 生田長江, 野上白川, 昇曙夢, 森田草平『近代文芸十二講』新潮社
- 1926年 6月 矢野峰人『近代英文学史』第一書房
- 1927年 7月 本間久雄『欧洲近代文芸思潮概論』早稲田大学出版部
- 1943年 3月 ホルブルック・ジャクソン/大塚宣也訳『近代英吉利文学論』肇書房
- 1943年 12月 矢野峰人『近英文芸批評史』全国書房
- 1955年 8月 ホルブルック・ジャクソン/小倉多加志訳『イギリス世紀末文学』千城書店

- 1957年10月 吉田健一『近代文学論』垂水書房
- 1959年11月 吉田健一『英国の近代文学』垂水書房
- 1978年10月 『ユリイカ』(第10巻第11号)(デカダンス 爛熟と頹廢の美学) 青土社
- 1978年12月 矢野峰人『世紀末文学史』(上巻) 牧神社
- 1979年2月 矢野峰人『世紀末文学史』(下巻) 牧神社
- 1981年1月 高階秀爾『世紀末芸術』紀伊國屋書店
- 1984年5月 平島正郎他『徹底討議 19世紀の文学・芸術』青土社
- 1985年3月 ウィリ・ハース／菊盛英夫訳『ベル・エポック』岩波書店
- 1985年7月 バジル・ウィリ／米田一彦他訳『十九世紀イギリス思想』みすず書房
- 1986年9月 辻邦生責任編集『美神と殉教者』集英社
- 1987年10月 ジャン・ピエロー／渡辺義愛訳『デカダンスの想像力』白水社
- 1987年12月 山田勝『世紀末の群像』創元社
- 1990年11月 前川祐一『ダンディズムの世界』晶文社
- 1990年2月 ホルブルック・ジャクソン／澤井勇訳『世紀末イギリスの芸術術と思想』松柏社
- 1991年9月 ピエール・ショーニュー／大谷尚文訳『歴史とデカダンス』(叢書ユニベルシタス)  
法政大学出版局
- 1993年7月 鳥海久義『ラファエル前派と世紀末』評論社
- 1993年3月 『デカダンス』共立女子大学文学藝術研究所
- 1994年2月 高階秀爾『想像力と幻想』青土社
- 1994年8月 J・アドルフ・シュモル＝アイゼンヴェル／種村季弘監訳『論集世紀末』平凡社
- 1995年12月 前川祐一『イギリスのデカダンス』晶文社
- 1996年11月 出口保夫編『世紀末のイギリス』研究社
- 1999年11月 玉井暉『イギリス世紀末におけるテキストと言語—ペイターとワイルド』海川企  
画出版部
- 1999年12月 富士川義之『英国の世紀末』新書館
- 2000年6月 平島正郎他『徹底討議 19世紀の文学・芸術』青土社(新装版)
- 2004年6月 ジャン・ピエロー／渡辺義愛訳『デカダンスの想像力』白水社(新装復刊)
- 2007年6月 矢野峰人『矢野峰人選集』(1) 国書刊行会
- 2007年8月 矢野峰人『矢野峰人選集』(2) 国書刊行会
- 2007年11月 矢野峰人『矢野峰人選集』(3) 国書刊行会
- 2007年11月 矢野峰人『決定版 世紀末英文学史』沖積舎
- 2008年7月 高階秀爾『世紀末芸術』(ちくま学芸文庫) 筑摩書房
- 2008年11月 フーゴ・フォン・ホフマンスタール他／高木昌史編訳『世紀末芸術論』青土社
- 2013年2月 新谷好『英国世紀末文化とオスカー・ワイルド』英宝社
- 2015年7月 佐々木隆「世紀末研究とワイルド」(佐々木隆『日本オスカー・ワイルド受容研究  
(後編)』多生堂)
- 2019年3月 リンダ・ダウリング／森岡伸訳『ヴィクトリア朝世紀末の言語とデカダンス』英宝

社

2019年 8月 中村隆夫『象徴主義と世紀末世界』東信堂

### (7) マックス・ノルダウ

1902年 10月 善六「陳列場たより」(『学燈』第65号)

\**Paradoxes, Conventional Lies of Our Civilization, Degeration*の入荷案内がある。

1902年 11月 長谷川天溪「マックス、ノルダウ」(『早稲田学報』第76号)

1902年 12月 愛天生「文学的成功の秘訣如何」(『帝国文学』第8巻第12号)

1906年 9月 マックス・ノルダウ／劍菱(正宗忠夫)訳『パラドックス』読売新聞社

1907年 1月 マックス・ノルダウ／桐生悠々訳『現代文明と批判』隆文館

1909年 12月 文東生「ノルダウの芸術論」(『学燈』第13年第12号)

1914年 3月 マックス・ノルダウ／中島茂一訳／大日本文明協会訳『現代の墮落』大日本文明協会事務所

1934年 6月 本間久雄「世紀末文学思潮」(『イギリス文学史 十九世紀(下)』英語英文学刊行会)

1969年 12月 井村君江「日本におけるオスカー・ワイルド—移入期(第1部)」(『鶴見女子大学紀要』第7号)

1970年 4月 矢野禾積「象徴主義移入の歴史」(富士川英郎編『東洋の詩 西洋の詩』朝日出版社)

1994年 3月 貝澤哉「デカダンという病—世紀末ロシアとノルダウの『退化』」(『早稲田文学年誌』第30号、早稲田大学比較文学研究室)

1994年 4月 千足伸行「マックス・ノルダウの『デカダンス論』と世紀末芸術」(成城大学文芸学部編『成城大学文芸学部 創立四十周年記念論集』成城大学文芸学部)

1994年 12月 勝呂奏「マックス・ノルダウ、そして正宗白鳥：『パラドックス』を中心にして」(江頭彦造編『受容と創造 比較文学の試み』宝文館出版)

2002年 11月 鎌倉芳信「自然主義文学とマックス・ノルダウ」(『国文学 言語と文芸』第119号、おうふう)

2005年 11月 加藤洋介「香水をつけたハンカチ—マックス・ノルダウの退化論と『虞美人草』—」(『漱石研究』第18号、翰林書房)

2006年 11月 佐々木隆「デカダン論のワイルド紹介」(『書誌から見た日本ワイルド受容研究(明治編)』イーコン)

### (8) 唯美主義

1907年 9月 島村抱月「英国の尚美主義」(『明星』未歳第9号、東京新詩社)

- 1909年 6月 島村瀧太郎「英国の尚美主義」（『近代文藝之研究』早稲田大学出版部）
- 1912年 2月 古賀行義「オスカー・ワイルドの唯美派的藝術観の要旨」（『龍南会雑誌』第144号、龍南会）
- 1916年 3月 森口多里「オスカー・ワイルドの美学」（『早稲田文学』第124号）
- 1919年 6月 島村抱月「英国の尚美主義」（『抱月全集』第1巻，天佑社）
- 1920年 8月 森口多里「唯美主義のホキスラー」／「オスカー・ワイルドの美学」（『異端の画家』日本芸術院）
- 1927年 9月 阪井徳三「自我、観照遊離逃避の芸術—階級芸術としての近代唯美主義」（『早稲田文学』第260号）
- 1934年 5月 本間久雄『英国近世唯美主義の研究』東京堂
- 1936年 3月 大西克礼編『大塚博士講義集』（第2巻）岩波書店
- 1937年 11月 竹林章「近世英国唯美主義の発生的研究（1）」（『早稲田英文学』第5輯，早稲田英文学会）
- 1937年 12月 竹林章「近世英国唯美主義の発生的研究（2）」（『早稲田英文学』第6輯，早稲田英文学会）
- 1941年 8月 益田道三『近代唯美思潮研究』昭森社
- 1956年 10月 『明治大正文学研究』（特集：耽美主義の研究，第20号，東京堂）
- 1958年 3月 大森衛「オスカー・ワイルドの唯美主義運動—その社会的性格を中心として—1」（『西南学院大学文学論集』第4巻第2号，西南学院大学学術研究会）
- 1958年 3月 大森衛「オスカー・ワイルドの唯美主義運動—その社会的性格を中心として—2」（『西南学院大学文学論集』第4巻第3号，西南学院大学学術研究会）
- 1969年 3月 山田勝「オスカー・ワイルド研究—唯美主義と社会性の問題」（『Shoin Literary Review』第2号、松蔭女子学院大学）
- 1971年 11月 ロバート・ビンセント・ジョンソン／中沼了訳『唯美主義』研究社
- 1977年 3月 高橋宣勝「Wilde の唯美主義に関する覚え書き—初期の作品に見られる社会的姿勢について」（『外国語・外国文学研究』第23号、北海道大学文学部）
- 1978年 5月 ロビン・スペンサー／愛甲健児訳『唯美主義運動』PARCO 出版局
- 1979年 9月 島村抱月「英国の尚美主義」（『抱月全集』第1巻，日本図書センター）
- 2004年 9月 谷田博幸『唯美主義とジャパニズム』名古屋大学出版会
- 2005年 11月 富士川義之代表『文学と絵画 唯美主義とは何か』英宝社
- 2006年 9月 伊藤勲「英国唯美主義の濫觴（1）～（4）」（『公評』第43巻第8号～第11号、公評社）（～12月）
- 2008年 3月 伊藤勲，「英国唯美主義と日本の影（1）～（4）」（『公評』第45巻第2号、第5号、第7号、第10号）公評社（6月、8月、10月）
- 2014年 2月 『芸術新潮』（特集：英国ヴィクトリア朝美術の陶醉（エクスタシー）：ラファエル前派から唯美主義まで、第65巻第2号、新潮社）

- 2019年 3月 川端康雄, 井上亜紗, 海老名恵, 押田昊子, 花角聡美訳「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』(1882年)試訳と注解(1)」(『日本女子大学紀要』文学部、第69号)
- 2020年 3月 川端康雄, 井上亜紗, 海老名恵, 押田昊子, 花角聡美訳「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』(1882年)試訳と注解(2)」(『日本女子大学紀要』文学部、第70号)
- 2021年 3月 荒川裕子「ラファエル前派、唯美主義 全盛の大英帝国と耽美へ向かうアート」(『芸術新潮』特集：唯美と奇想の王国 決定版 英国絵画史、第72巻第3号、新潮社)
- 2021年 3月 川端康雄, 井上亜紗, 海老名恵, 押田昊子, 花角聡美訳「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』(1882年)試訳と注解(3)」(『日本女子大学紀要』文学部、第71号)

### (9) ラファエル前派

- 1922年 11月 森口多里『近代美術十二講』東京堂
- 1931年 4月 ジョン・ラスキン／御木本隆三訳『ラファエル前派主義』東京ラスキン会
- 1974年 5月 向山泰子『ラファエル前派運動とD. G. ロゼッティと』青山学院女子短期大学学芸懇話会
- 1974年 9月 レナート・バリルリ／高階秀爾訳『ラファエル前派』(現代の絵画4) 平凡社／ファブリ
- 1981年 クリスチファー・ウッド／野原邦男訳『ラファエル前派』ロイヤルギャラリー／アート・ウェーブ
- 1984年 7月 岡田隆彦『ラファエル前派—美しき<運命の女>たち』美術公論社
- 1986年 3月 大原三八雄『ラファエル前派の美学』思潮社
- 1989年 12月 スティーヴン・アダムズ／高宮利行訳『ラファエル前派の画家たち』プロポート
- 1990年 12月 ジャン・マーシュ／河村錠一郎訳『“女” ラファエル前派画集』白水社
- 1992年 1月 ティモシー・ヒルトン／岡田隆彦, 篠田達美訳『ラファエル前派の夢』白水社
- 1993年 7月 鳥海久義『ラファエル前派と世紀末』評論社
- 1994年 4月 アンドレア・ローズ／谷田博幸訳『ラファエル前派』西村書店
- 1999年 3月 藪享他研究者代表『芸術と生活 ラファエル前派の総合的研究』科学研究費補助金報告書(1996年度～1998年度)(基盤研究(B)研究成果報告書課題番号: 08451012)
- 1999年 9月 武蔵大学図書館研究情報センター編『ラファエル前派—書物と肖像から—』武蔵大学図書館
- 2000年 4月 『ラファエル前派展』(カタログ) アルティス
- 2001年 3月 ローランス・デ・カール／高階秀爾監修／村上尚子訳『ラファエル前派』(知の再

発見双書 94) 創元社

- 2005年 8月 斉藤貴子『ラファエル前派の世界』東京書籍
- 2006年 12月 松下由里『ロセッティとラファエル前派』六耀社
- 2008年 6月 木島俊介監修『ジョン・エヴァレット・ミレイ展』朝日新聞社 (カタログ)
- 2008年 7月 『英語青年』(第154巻第4号:通号第1913号)(特集:ラファエル前派) 研究社
- 2009年 5月 アンドレア・ローズ/谷田博幸訳『ラファエル前派』西村書店 (新装版)
- 2010年 9月 ヒーサー・バーチャル/ノルベルト・ヴォルフ編『ラファエル前派』タッシェン・ジャパン
- 2010年 9月 ブレーントラスト編『ラファエル前派からウィリアム・モリスへ』「ラファエル前派からウィリアム・モリスへ」展カタログ委員会
- 2013年 5月 河村錠一郎「美術—ラファエル前派、ビアズリー、リケッツ」(富士川義之・玉井暲・河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社)
- 2014年 2月 『芸術新潮』(特集:英国ヴィクトリア朝美術の陶醉(エクスタシー):ラファエル前派から唯美主義まで、第65巻第2号、新潮社)
- 2018年 5月 喜多崎親編『前ラファエロ主義—過去による19世紀絵画の革新』三元社
- 2019年 3月 荒川裕子『もっと知りたいラファエル前派』東京美術
- 2021年 3月 荒川裕子「ラファエル前派、唯美主義 全盛の大英帝国と耽美へ向かうアート」(『芸術新潮』特集:唯美と奇想の王国 決定版 英国絵画史、第72巻第3号、新潮社)
- 2021年 4月 河村錠一郎『イギリスの美、日本の美—ラファエル前派と漱石、ビアズリーと北斎』東信堂

(10) ジョン・ラスキン

- 1905年 2月 正岡芸陽『文豪ラスキン』嵩山房
- 1908年 10月 渡辺芳雄編『ラスキン言行録』内外出版協会
- 1922年 9月 御木本隆三『ラスキンの経済的美術観』厚生閣
- 1924年 11月 御木本隆三『ラスキン研究 彼の美と徳と経済』厚生閣
- 1925年 8月 浦口文治『ジョアン・ラスキン』同文館
- 1927年 2月 大熊信行『社会思想家としてのラスキンとモリス』新潮社
- 1931年 3月 御木本隆三『哲人ラスキン』萬理閣
- 1931年 6月 Mikimoto, Ryuzo. *What is Ruskin in Japan.* Shimeisha.
- 1934年 4月 御木本隆三『ラスキンの遺物』岡倉書房
- 1936年 5月 内ヶ崎浩一郎『ラスキン研究 その他』明文社
- 1938年 8月 麻木米次郎『ジョン・ラスキン』東京ラスキン協会
- 1941年 2月 麻木米次郎『ジョン・ラスキン』多摩書房
- 1965年 8月 宇井丑之助『ジョン・ラスキンの人と思想』東峰書房

- 1986年 2月 ラスキンの文庫編『ラスキン文庫蔵書目録』ラスキンの文庫  
 2004年 2月 人見伸子編『ラスキン文庫収蔵品目録 御木本隆三コレクション』ラスキンの文庫 =

### (11) ウィリアム・モリス

- 1924年 5月 加田哲二『ウィリアム・モリス』岩波書店  
 1934年 10月 川瀬代武雄代表『モリス記念論集』川瀬日進堂書店  
 1935年 4月 大槻憲二『モリス』研究社  
 1973年 9月 小野二郎『ウィリアム・モリス』中央公論社  
 1978年 3月 岡田隆彦編『ウィリアム・モリスとその仲間たち』岩崎美術社  
 1979年 4月 小野二郎『装飾芸術—ウィリアム・モリスとその周辺』青土社  
 1980年 6月 大槻憲二『モリス』研究社（復刻版）  
 1980年 10月 山本正三『ウィリアム・モリスのこと』相模書房  
 1986年 3月 小野二郎『ウィリアム・モリス研究』（小野二郎著作集Ⅰ）晶文社  
 1989年 3月 鈴木博之『ウィリアム・モリス展カタログ』ウィリアム・モリス展カタログ委員会  
 1989年 12月 ピーター・スタンスキー／草光俊雄訳『ウィリアム・モリス』雄松堂出版  
 1990年 3月 フィリップ・ヘンダーソン／川端康雄，志田均，永江敦訳『ウィリアム・モリス  
 伝』晶文社  
 1990年 11月 ジリアン・ネイラー／多田稔監修／ウィリアム・モリス研究会訳『ウィリアム・モ  
 リス』講談社  
 1992年 5月 小野二郎『ウィリアム・モリス—ラディカル・デザインの思想』中央公論社  
 1993年 8月 池上惇『生活の芸術化』（丸善ライブラリー）丸善  
 1993年 10月 寿岳文章『モリス論集』沖積舎  
 1994年 9月 ポール・トムスン／白石和世訳『ウィリアム・モリスの全仕事』岩崎美術社  
 1995年 2月 マルカム・ハイラム／高野瑤子訳『ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツカーペ  
 ット』千穂館  
 1996年 11月 寿岳文章他『モリス記念論集』沖積舎（覆刻）  
 2004年 6月 名古忠行『ウィリアム・モリス』研究社  
 2008年 5月 ダーリング・ブルース，ダーリング・常田益代『図説 ウィリアム・モリス』河  
 出書房新社  
 2008年 6月 川端康雄『ジョン・ラスキンとウィリアム・モリスによるエコクリティシズムへ  
 の貢献に関する研究』科学研究費補助金報告書（2005年度～2007年度）（基盤  
 研究（C）研究課題番号：17520204）  
 2008年 9月 『生活と芸術—アーツ&クラフツ展 ウィリアム・モリスから民芸まで』朝日新  
 聞社  
 2008年 10月 木村竜太『空想と科学の横断としてのユートピア』晃洋書房  
 2009年 1月 藤田治彦『もっと知りたいウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ』東京美術

- 2009年 9月 平田耀子「ウィリアム・モリスと本間久雄」(『人文研紀要』第66号、中央大学人文科学研究所)
- 2010年 9月 ブレーントラスト編『ラファエル前派からウィリアム・モリスへ』「ラファエル前派からウィリアム・モリスへ」展カタログ委員会
- 2011年 5月 小野二郎『ウィリアム・モリス—ラディカル・デザインの思想』(改版)中央公論新社
- 2012年 2月 小野二郎・川端康雄編『ウィリアム・モリス通信』みすず書房
- 2012年12月 『季刊Plan B』(特集:ウィリアム・モリスをどう捉えるか)(第40号)NPO法人日本針路研究所
- 2013年 3月 海野弘監修『ウィリアム・モリス=William Morris』バイインターナショナル
- 2016年 6月 蛭川久康『評伝 ウィリアム・モリス』平凡社

### (12) ウィリアム・モリス書誌

- 1934年 4月 東京キリアム・モリス研究会編『モリス書誌』丸善
- 1934年10月 富田文雄「文献より見たる日本に於けるモリス」「日本モリス文献目録」(川瀬武雄代表『モリス記念論集』川瀬日進堂書店)
- 1976年12月 牧野和春、品川力編「日本におけるウィリアム・モリスの文献」(『みすず』第18巻第11号)
- 1993年10月 寿岳文章「モリス本の日本語訳」「モリス参考文献」(『モリス論集』沖積舎)
- 1996年11月 富田文雄「文献より見たる日本に於けるモリス」「日本モリス文献目録」(寿岳文章他『モリス記念論集』川瀬日進堂書店、覆刻版)

### (13) オーブリー・ビアズリー

- 1923年 6月 喜多村進『ビアズレーと其芸術』(表現叢書)二松堂
- 1948年 2月 式場隆三郎『ビアズレイの生涯と芸術』建設社
- 1969年 6月 スタンリー・ワイントラウブ／高儀進訳『ビアズリー』美術出版社
- 1970年11月 大森忠行『ビアズレイのイラストレーション』岩崎美術社
- 1974年 5月 矢野峰人監修／関川左木夫訳『サヴォイのビアズレイ』東出版
- 1976年12月 関川左木夫『ビアズレイの芸術と系譜』東出版
- 1978年10月 『カイエ』(第1巻第4号)(特集・ビアズリー 世紀末の美学)冬樹社
- 1980年 9月 河村錠一郎『ビアズリーと世紀末』青土社
- 1980年11月 関川左木夫『ビアズレイの芸術と系譜』東出版(改訂版)
- 1983年 3月 関川左木夫監修／原美術館編纂『ビアズレイと日本の装幀画家たち』阿部出版(カタログ)
- 1985年 9月 サイモン・ウィルソン／中川伸子訳『ビアズリー』岩崎美術社

- 1987年10月 柴田英輔編『ピアズレイヤーとロンドン』学習研究社
- 1989年5月 スタンリー・ワイントラウブ／高儀進訳『ピアズリー伝』中央公論社
- 1991年12月 河村錠一郎『ピアズリーと世紀末』青土社（新装版）
- 1992年3月 ケネス・クラーク／河村錠一郎訳『ベスト・オブ・ピアズリー』白水社
- 1997年11月 ロドニー・エンゲン／河村錠一郎監修『ピアズリーと世紀末展』「ピアズリーと世紀末展」実行委員会（カタログ）
- 1998年2月 『オーブリー・ピアズリー展』アート・ライフ（カタログ）
- 2013年5月 河村錠一郎「美術—ラファエル前派、ピアズリー、リケッツ」（富士川義之・玉井暉・河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社）
- 2015年12月 河村錠一郎監修『ピアズリーと日本』アルティス
- 2021年3月 河村錠一郎「ピアズリーはイギリス的？非イギリス的？」（『芸術新潮』特集：唯美と奇想の王国 決定版 英国絵画史、第72巻第3号、新潮社）
- 2021年4月 河村錠一郎『イギリスの美、日本の美—ラファエル前派と漱石、ピアズリーと北斎』東信堂

#### (14) 美学

- 1872年 西周『美妙学説』（御進講）
- 1879年5月 菊地大麓訳『修辞及華文』（百科全書）文部省編輯局
- 1883年12月 ユージェーンヌ・ウェロン／中江篤江，野村泰亭訳『維氏美学』（上下）文部省編輯局（～1884年12月）
- 1894年9月 島村瀧太郎「審美的意識の性質を論ず」（『早稲田文学』第72号～第73号、第75号、第77号～第78号）
- 1899年6月 森林太郎，大村西崖編『審美綱領』（上下）春陽堂
- 1899年9月 高山樗牛『近世美学』博文館
- 1900年2月 森林太郎編『審美真説』春陽堂
- 1902年2月 森林太郎編『審美極致論』春陽堂
- 1902年5月 島村瀧太郎『新美辞学』東京専門学校出版部
- 1903年2月 大西祝『大西博士全集』（全7巻）警告醒書店（～1904年12月、1982年12月に日本図書センターより複製本）
- 1906年3月 中川重麗『俳諧美学』博文館
- 1909年12月 島村瀧太郎『美学概論』（文芸百科全書）早稲田文学社
- 1911年4月 中川重麗『觸背美学』博文館
- 1917年4月 阿部次郎『美学』岩波書店
- 1921年1月 テオドル・リップス／稲垣末松訳『美学汎論』洛陽堂
- 1922年6月 黒田鵬『美学及芸術学論台本』誠文堂
- 1930年1月 谷川徹三「美学」（『大思想エンサイクロペディア』2、春秋社）

- 1930年 4月 ベネデット・クローチェ／長谷川誠也・大槻憲二訳『美学』（世界大思想全集 46）  
春秋社
- 1933年 5月 大西克礼編『大塚博士講義集』（第1巻）岩波書店
- 1934年 2月 山際靖『新講義美学概論』東洋図書
- 1959年 2月 ジョリス＝カルル・ユイスマンス／久保伊平治訳『美学』（文庫クセジュ）白水社
- 1959年 10月 大西克礼『美学』（上下）弘文堂（～1960年8月）
- 1961年 3月 大西克礼『浪漫主義の美学』弘文堂
- 1961年 12月 竹内敏雄編『美学事典』弘文堂
- 1968年 5月 大西克礼『浪漫主義の美学と芸術観』弘文堂
- 1973年 6月 今道友信『美について』（講談社現代新社）講談社
- 1974年 6月 竹内敏雄編『美学事典』弘文堂（増補版）
- 1975年 2月 西周著者代表『明治藝術・文学論集』（明治文学全集 79）筑摩書房
- 1982年 10月 佐々木斐夫編『美意識の発生』東海大学出版会
- 1984年 5月 今道友信編『講座 美学』（全5巻）東京大学出版会（～1985年5月）
- 1992年 12月 東大寺乱『美学大全』沖積舎
- 1993年 2月 濱下昌宏『18世紀イギリス美学史研究』多賀出版
- 1995年 3月 佐々木健一『美学辞典』東京大学出版会
- 1995年 7月 小田部胤久『象徴の美学』東京大学出版会
- 1995年 8月 ヴィリヘルム・フリードリッヒ・ヘーゲル／長谷川宏訳『美学講座』（上巻）作品社
- 1996年 3月 ヴィリヘルム・フリードリッヒ・ヘーゲル／長谷川宏訳『美学講座』（中巻）作品社
- 1996年 3月 浅岡潔『美学史研究序説』やしま書房
- 1996年 10月 ヴィリヘルム・フリードリッヒ・ヘーゲル／長谷川宏訳『美学講座』（下巻）作品社
- 2000年 3月 ニコライ・ハルトマン／福田敬訳『美学』作品社
- 2004年 5月 柄谷行人『定本柄谷行人集』（第4巻）岩波書店
- 2012年 12月 大西克礼『大西克礼美学コレクション1』書肆心水
- 2013年 2月 大西克礼『大西克礼美学コレクション2』書肆心水
- 2013年 5月 大西克礼『大西克礼美学コレクション3』書肆心水
- 2015年 7月 佐々木隆「美学研究とワイルド」（佐々木隆『日本オスカー・ワイルド受容研究（後編）』多生堂）

#### （15）日本の美学受容史

- 1941年 12月 山際靖『美学 日本美学への理念』朝倉書店
- 1964年 8月 長谷川泉『『奚般氏著心理学』と『維氏美学』』（『國語と國文学』第485号、東京大

学国語国文学会)

- 1964年10月 飛鳥井正道「民撰運動と『維氏美学』—民撰運動と啓蒙主義の関係の一側面—」  
(『人文学報』第20号、京都大学人文科学研究所)
- 1970年4月 安田武・多田道太郎編『日本の美学』風濤社
- 1972年4月 磯貝英史「鷗外の審美批評—『しがらみ草紙』から『めさまし草』へ—」(『國語と  
國文学』第577号、東京大学国語国文)
- 1975年2月 土方定一「森鷗外と明治美学史」(西周著者代表『明治藝術・文学論集』明治文学  
全集79、筑摩書房)
- 1975年2月 土方定一「美学者としての大西祝」(西周著者代表『明治藝術・文学論集』明治文  
学全集79、筑摩書房)
- 1986年 Doi, Yoshio. “Bruno Taut in Japan”. (*Aesthetics*, 2. The Japanese Society  
For Aesthetics)
- 1990年 Kaneda, Tamio. “NAKAGAWA Jurei und die japanische Ästhetik um die  
Jahrhundertmende”. (*Aesthetics*, 4. The Japanese Society For  
Aesthetics)
- 1990年3月 金田民夫『日本近代美学序説』法律文化社
- 1993年12月 松永昌三「中江篤介訳『維氏美学』自筆草稿について」(『岡山大学文学部紀要』  
第20号) 岡山大学文学部)
- 1999年 Marra, Michele. *Modern Japanese Aesthetics: A Reader*. Honolulu:  
University of Hawai’ i Press (参考)
- 2001年 Odin, Steve. *Artistic Detachment in Japan and the West*. Honolulu:  
University of Hawai’ i Press (参考)
- 2001年 Narra, Michele. *A History of Modern Japanese Aesthetics*. Honolulu:  
University of Hawai’ i Press (参考)
- 2002年3月 加藤哲弘『明治期日本の美学と芸術研究』加藤哲弘(科研費研究成果報告)
- 2002年9月 神林恒道『美学事始』勁草書房
- 2006年3月 神林恒道『近代日本「美学」の誕生』講談社
- 2008年1月 浜下昌宏「日本近代におけるドイツへの傾斜—『日本近代美学におけるドイツ  
(学)的契機』序章」(『神戸女学院大学論集』第54巻第2号:通号第159号、  
神戸女学院大学研究所)

#### (16) ダンディズム

- 1950年7月 齋藤磯雄「ダンディズム」(『ボオドレエル研究』三笠書房)
- 1971年6月 齋藤磯雄「ダンディズム」(『ボオドレエル研究』東京創元社)
- 1975年7月 生田耕作『ダンディズム—栄光と悲惨』奢瀨都館
- 1980年2月 『ダンディズム』(人生読本)河出書房新社

- 1981年 4月 山田勝『世紀末とダンディズム』創元社  
 1981年 8月 出石尚三『ダンディズムの肖像』冬樹社  
 1989年 9月 山田勝『ダンディズム 貴族趣味と近代文明批判』日本放送出版協  
 1989年 11月 ロジェ・ケンプ／桜井哲夫訳『ダンディ』講談社  
 1990年 1月 前川祐一『孤高のダンディズム』晶文社  
 1990年 11月 山田勝『回想のベル・エポック』（NHKブックス）日本放送出版協会  
 1991年 7月 齋藤磯雄「ダンディズム」（『齋藤磯雄著作集』第1巻，東京創元社）  
 1993年 11月 山田勝『イギリス人の表と裏』（NHKブックス）日本放送出版協会  
 1994年 5月 小林章夫『イギリス精神』PHP研究所  
 1994年 6月 山田勝『ドゥ ミモンデーヌ』（ハヤカワノンフィクション文庫）早川書房  
 1994年 12月 山田勝『イギリス貴族』創元社  
 1999年 3月 生田耕作『ダンディズム』中央公論新社  
 2015年 7月 佐々木隆「ダンディズムとワイルド」（佐々木隆『日本オスカー・ワイルド受容研  
 究（前編）』多生堂）

#### (17) 同性愛

- 1919年 9月 榊保三郎『性欲研究と精神分析学』実業之日本社  
 1920年 6月 沢田順次郎『神秘なる同性愛』（性的叢書）天下堂  
 1925年 6月 沢田順次郎『文芸に現はれたる恋愛の研究』大京堂書店  
 1931年 12月 守田有秋『同性愛の研究』人生創造社  
 1956年 11月 リチャード・フォン・クラフト＝エビング／平野威馬雄訳『変態性欲心理学』（世  
 界性学全集第7巻）河出書房  
 1957年 6月 メダルト・ボス／村上仁，吉田和夫訳『性的倒錯』みすず書房  
 1984年 12月 ケネス・ドーヴァー／中務哲郎，下田立行訳『古代ギリシアの同性愛』リブロポー  
 ト  
 1989年 4月 須永朝彦編／南條竹則訳『泰西少年愛読本』新書館  
 1993年 5月 アラン・ブレイ／田口孝夫，山本雅男訳『同性愛の社会史—イギリス・ルネッサン  
 ス』彩流社  
 1994年 9月 土屋恵一郎編／富山太佳夫監訳『ホモセクシュアリティ』弘文堂  
 1995年 3月 ディヴィッド・M・ハルプリン／石塚浩司訳『同性愛の百年間』法政大学出版局  
 1996年 1月 原田武『プルーストと同性愛の世界』せりか書房  
 2002年 2月 ギルバート・ハート／黒柳俊恭，塩野美奈訳『性愛のカルチャー研究』現代書館  
 2004年 5月 大橋洋一研究者代表『英国同性愛演劇と近代日本文化』（2001～2003年度科学研究  
 費補助金報告書（基盤研究（C）（2））研究成果報告書研究課題番号：13610555）  
 2005年 4月 海野弘『ホモセクシュアルの世界史』文芸春秋  
 2006年 9月 古川誠，赤枝香奈子編『戦前期同性愛関連文献集成』（全3巻）（編集復刻版）不

## 二出版

- 2008年 5月 金井淑子編『身体とアイデンティティ・トラブル』明石書店  
2008年 8月 海野弘『ホモセクシュアルの世界史』（文春文庫）文芸春秋  
2009年 1月 ロバート・オールドリッチ編／田中英史, 田口孝夫訳『同性愛の歴史』東洋書林  
2012年 12月 桐生操『世界ボーイズラブ大全 「耽美」と「少年愛」と「悦楽」の畀』文藝春秋  
2013年 6月 匠雅音『ゲイの誕生』彩流社  
2017年 4月 前川直哉『〈男性同性愛者〉の社会史—アイデンティティの受容/クローゼットへの解放』作品社

### (18) 日本西欧近代心理学受容史

- 1997年 11月 佐藤達哉, 溝口元編『通史 日本の心理学』北大路書房  
1998年 7月 心理科学研究会歴史研究部会編『日本心理学史の研究』法政出版  
2002年 3月 杉江藍「明治期日本における心理学の導入と『感情』理解—井上哲次郎抄訳『倍因氏心理新説』を中心に—」（『教育学研究紀要』第47巻、中国四国教育学会）  
2002年 9月 佐藤達哉『日本における心理学の受容と展開』北大路書房  
2003年 3月 高砂美樹「日本における心理学史の現在」（『臨床心理学研究』創刊号、東京国際大学大学院臨床心理学研究科）  
2003年 10月 サトウタツヤ, 高砂美樹『流れを読む心理学史—世界と日本の心理学』有斐閣  
2007年 12月 菅野幸恵「明治・大正期の日本における西洋の心理学の受容と展開」（『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』第15号、青山学院女子短期大学総合文化研究所）  
2022年 1月 サトウタツヤ, 高砂美樹『流れを読む心理学史—世界と日本の心理学 補訂版』有斐閣

### (19) アンドレ・ジイド

- 1909年 6月 野口米次郎「オスカー、ワイルドの一面」（『太陽』第15巻第8号、博文館）  
1931年 9月 河上徹太郎「ジイドとワイルド」（『作品』第2巻第9号、作品社）  
1931年 10月 河上徹太郎「ジイドとワイルド」（『作品』第2巻第10号、作品社）  
1931年 10月 河上徹太郎「ジイドとワイルド」（『作品』第2巻第11号、作品社）  
1935年 12月 高樹一郎「ジイドとワイルド」（『社会』第4巻第11号、同人社書店）  
1948年 11月 平井博「André Gide と Oscar Wilde」（『近代文化の諸相』福島聖専校）  
1980年 7月 平井博「André Gide と Oscar Wilde」（『オスカー・ワイルド考』松柏社）  
1981年 1月 河上徹太郎「ジイドとワイルド」（『河上徹太郎著作集』第3巻、新潮社）  
1988年 3月 堀江珠喜「ナルシス達の邂逅—ワイルドとジイド」（『神戸英米論叢』第1号、神

戸英米学会)

- 1992年 4月 堀江珠喜『『オスカー・ワイルド論』とジッド』(『薔薇のサディズム』英潮社)  
1997年 10月 三国宣子「ジッド」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店)  
1999年 12月 山内昶『ジッドの秘められた愛と性』筑摩書房

## (20) 本間久雄

- 1996年 6月 佐々木隆「明治時代のワイルド受容」(『武蔵野短期大学研究紀要』第13輯、武蔵野短期大学)  
1997年 10月 安智史「本間久雄」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店)  
1998年 7月 清水義和「日本に於ける近代批評研究移入考 ウオルター・ペイターからオスカー・ワイルドへ—本間久雄の『明治文学史』を巡って—」(『愛知学院大学論叢教養部紀要』第46巻第1号、愛知学院大学一般教育研究会)  
1998年 11月 清水義和「日本に於けるショー・シェークスピア・ワイルド移入研究：市川又彦、坪内士行、本間久雄の著作目録、その他」(『愛知学院大学教養部紀要』第46巻第2号)  
1999年 3月 清水義和『ショー・シェークスピア・ワイルド移入史』文化書房博文社  
2001年 6月 佐々木隆「大正時代のワイルド受容」(『武蔵野短期大学研究紀要』第15輯、武蔵野短期大学)  
2003年 3月 工藤貴正「魯迅と唯美・頹廢主義—板垣鷹穂『近代美術史潮論』・本間久雄『欧洲近代文芸思潮概論』と美術叢刊『芸苑朝華』を中心に」(『学大国文』第46号、大阪教育大学国語教育講座・日本アジア言語文化講座)  
2005年 4月 佐々木隆「書誌から見た昭和時代(戦前)のワイルド受容—本間久雄、大塚保治、益田道三を中心に—」(『日欧比較文化研究』第3号、日欧比較文化研究会)  
2005年 12月 佐々木隆「本間久雄のワイルド研究—明治時代—」(『異文化の諸相』第26号、日本英語文化学会)  
2006年 10月 佐々木隆「本間久雄のワイルド研究—大正時代—」(『日欧比較文化研究』第6号、日欧比較文化研究会)  
2006年 11月 佐々木隆「本間久雄のワイルド紹介」(『書誌から見た日本ワイルド受容研究(明治編)』イーコン)  
2007年 4月 佐々木隆「本間久雄のワイルド研究—昭和時代(戦前)—」(『日欧比較文化研究』第7号、日欧比較文化研究会)  
2007年 10月 佐々木隆、本間久雄のワイルド研究—昭和時代(戦後)—」(『日欧比較文化研究』第8号、日欧比較文化研究会)  
2008年 11月 佐々木隆『書誌から見た日本ワイルド受容研究(本間久雄)』イーコン  
2009年 平田耀子「オスカー・ワイルドと本間久雄」(『Nichibunken Japan Review』第21号、国際日本文化研究センター)

- 2009年 2月 平田耀子「本間久雄：『滞歐印象記』、『英國近世唯美主義の研究』、そしてそれ以後（1）」（『英語英米文学』第49号、中央大学英米文学会）
- 2009年 7月 佐々木隆「本間久雄のワイルド研究」（『書誌から見た日本ワイルド受容研究（昭和戦前）』イーコン）
- 2012年 3月 平田耀子『本間久雄—大正時代のヨーロッパ文化移入』早稲田大学出版部
- 2013年 5月 佐々木隆「日本におけるワイルド文献史—増田・島村・本間のワイルド受容」（富士川義之，玉井暲，河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社）
- 2021年12月 『オスカー・ワイルド研究』（特集：ワイルド研究者としての本間久雄）（第20号）  
日本ワイルド協会

### (21) 芥川龍之介

- 1925年 8月 芥川龍之介「『サロメ』その他」（『女性』第8巻第2号，プラトン社）
- 1959年 5月 加藤京子「芥川龍之介における Oscar Wilde の影響」（『国語と国語学』第36巻第5号，至文堂）
- 1970年11月 笹渕友一「第7章 芥川龍之介の本朝聖人伝—『奉教人の死』と『じゅりあの・吉助』—」／「第8章 『西方の人』論」（笹渕友一『明治大正文学の分析』明治書院）
- 1971年 7月 芥川龍之介「Gaiety 座の『サロメ』」（『芥川龍之介全集』第5巻，筑摩書房）
- 1977年 1月 井村君江「芥川龍之介の『サロメ』」（『牧神』第83号，牧神社）
- 1977年 3月 笹渕友一「芥川龍之介『西方の人』新論—とくに比較文学的に—」（『ノートルダム清心女子大学紀要』国語国文学編、第1巻第1編）
- 1979年 7月 兼武進「芥川龍之介とオスカー・ワイルド—「美しき描写」をめぐって—」（『桃山学院大学人文科学研究』第15巻第1号，桃山学院大学人文科学総合研究所）
- 1981年 5月 兼武進「芥川『西方の人』の「ロマン主義者について」—ワイルドとの比較による覚書」（『桃山学院大学人文科学研究』第17巻第1号，桃山学院大学人文科学総合研究所）
- 1987年12月 笹渕友一「芥川龍之介『西方の人』新論—とくに比較文学的に—」（石割透編『芥川龍之介・作家とその時代』日本文学研究資料新集、有精堂出版）
- 1989年 2月 浜田一字「オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの画像』—芥川龍之介『地獄変』との比較論考」（『共立女子短期大学文科紀要』第32号，共立女子短期大学）
- 1990年 4月 井村君江「芥川龍之介の未定稿『サロメ』」（『「サロメ」の変容—翻訳・舞台』新書館）
- 1993年 7月 柴田多賀治『芥川龍之介と英文学』八潮出版社
- 1995年 7月 関口安義『この人を見よ 芥川龍之介と聖書』小沢書店
- 1997年10月 井村君江「芥川龍之介」（山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店）
- 1999年 8月 石割透編『西方の人』（芥川龍之介作品論集成、第3巻、翰林書房）

2007年 9月 庄司達也「Gaiety 座の『サロメ』をめぐって」(『国文学：解釈と鑑賞』第72巻第9号)(特集：芥川龍之介再発見—没後80年、至文堂)

## (22) 谷崎潤一郎

- 1913年 3月 本間久雄「谷崎潤一郎論」(『文章世界』第8巻第3号, 博文館)
- 1934年 4月 十一谷義三郎「谷崎潤一郎小論」(『ちりがみ文章』厚生閣)
- 1961年 6月 高田瑞恵「潤一郎とワイルド、ポウ」(『国文学』第6巻第7号, 学燈社)
- 1966年 9月 佐藤猛郎「谷崎潤一郎の戯曲におけるオスカー・ワイルドの影響について」(『学習院高等科研究紀要』第2号)
- 1971年 4月 小出博「谷崎潤一郎とワイルド」(吉田精一郎編『日本近代文学の比較文学的研究』清水弘文堂書房)
- 1971年 6月 橋本芳一郎『谷崎潤一郎の文学』桜風社
- 1972年 3月 福田陸太郎「欧米における谷崎文学の評価」(『東京成徳短期大学紀要』第5号)
- 1977年 3月 武本純一「谷崎のワイルド美学の曲解」(『大阪樟蔭女子大学論集』第14号)
- 1978年 3月 高橋宣勝「谷崎潤一郎とオスカー・ワイルド」(『外国語・外国文学研究』第24号, 北海道大学文学部)
- 1982年 12月 古川弘之「ワイルドと谷崎潤一郎—『信西』について」(『英米文学』第2号, 光華女子大学)
- 1982年 3月 鏡味國彦「『世紀末』イギリス文学と大正期の文壇—シモンズとワイルドの影響について—」(『立正大学人文科学研究所年報』別冊第4号)
- 1984年 3月 古川弘之「ワイルドと谷崎潤一郎—『人魚の嘆き』と『魔術師』について」(『英米文学』第3号, 光華女子大学)
- 1986年 3月 古川弘之「ワイルドと谷崎潤一郎—『法成寺物語』について」(『英米文学』第5号, 光華女子大学)
- 1987年 5月 鏡味國彦「アーサー・シモンズとオスカー・ワイルドの波動—大正期を中心に」(『十九世紀後半の英文学と近代日本』文化書房博文社)
- 1988年 3月 大川裕「谷崎文学とオスカー・ワイルド」(『日本大学人文科学研究所研究紀要』第35号)
- 1989年 9月 福田陸太郎「欧米における谷崎文学の評価」(『福田陸太郎著作集』第1巻, 沖積舎)
- 1992年 1月 堀江珠喜「谷崎潤一郎とワイルド」(『園田学園女子大学論文集』第26号)
- 1994年 6月 大川裕『美の冒険と殉教』大川和子
- 1995年 11月 中村真一郎「谷崎潤一郎の場合」(『再読 日本近代文学』集英社)
- 1997年 10月 井村君江「谷崎潤一郎」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店)
- 1998年 9月 福田陸太郎「欧米における谷崎文学の評価」(『福田陸太郎著作集』第1巻, 沖積舎)
- 1998年 12月 渡邊正彦「谷崎潤一郎の分身小説—『青塚氏の話』論」(分銅惇作編『近代文学論

の現在』蒼丘書林)

- 2000年 8月 堀江珠喜「谷崎潤一郎とワイルド」(『ワイルドとホームズとサロメのレビュー世界』北宋社)
- 2013年 5月 井村君江「8. ワイルドと日本文学—谷崎潤一郎と佐藤春夫を中心に」(富士川義之, 玉井暲, 河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社)

### (23) 佐藤春夫

- 1956年 12月 佐藤春夫『私の享楽論』朝日新聞社
- 1968年 3月 井村君江「佐藤春夫とワイルド」(成瀬正勝編『大正文学の比較文学的研究』明治書院)
- 1977年 9月 井村君江「佐藤春夫の憂鬱」(三好行雄・竹盛天雄編『近代文学』4、大正文学の諸相、有斐閣)
- 1981年 2月 藤田修一「『田園の憂鬱』—耽美派としての佐藤春夫—」(高田瑞穂編『大正文学論』有精堂出版)
- 1987年 5月 鏡味国彦「アーサー・シモンズとオスカー・ワイルドの波動—大正期を中心に」(『十九世紀後半の英文学と近代文学』文化書房博文社)
- 1997年 10月 井村君江「佐藤春夫」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店)
- 2013年 5月 井村君江「ワイルドと日本文学—谷崎潤一郎と佐藤春夫を中心に」(富士川義之・玉井暲・河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社)

### (24) 三島由紀夫

- 1949年 10月 三島由紀夫「美について」(『近代文学』第4巻第10巻, 河出書房)
- 1950年 4月 三島由紀夫「オスカー・ワイルド論」(『改造文学』第2巻第4号)
- 1951年 6月 三島由紀夫「オスカー・ワイルド論」「美について」(『狩りと獲物』要書房)
- 1951年 11月 三島由紀夫「唯美主義と日本」(『読売新聞』11月19日)
- 1954年 3月 三島由紀夫「オスカー・ワイルド」(『三島由紀夫作品集』第6巻, 新潮社)
- 1954年 11月 三島由紀夫「オスカー・ワイルド」(『獄中記』—ワイルド作)(『文学的人生論』河出書房)
- 1958年 8月 三島由紀夫「唯美主義と日本」(『三島由紀夫選集』第10巻, 新潮社)
- 1961年 11月 三島由紀夫「『サロメ』の演出について」(『美の襲撃』講談社)
- 1966年 8月 三島由紀夫「オスカー・ワイルド論」(『獄中記』)「『サロメ』の演出について」(『三島由紀夫評論全集』新潮社)
- 1972年 3月 越川正三「三島由紀夫のワイルド論」(『商学論究』第19巻第4号, 関西学院大学)
- 1975年 5月 三島由紀夫「オスカー・ワイルド論」(『完本獄中記』—ワイルド作)「唯美主義と日本」(『三島由紀夫全集』第25巻, 新潮社)

- 1975年 9月 三島由紀夫『『サロメ』の演出について』「わが夢のサロメ」(『三島由紀夫全集』第29巻, 新潮社)
- 1977年 3月 先田進「三島由紀夫とオスカー・ワイルド—習作期におけるワイルド受容」(『日本文芸論稿』第7号, 東北大学文芸談話会)
- 1979年 3月 山口哲生「オスカー・ワイルドと三島由紀夫についての覚え書」(『和光大学人文学部紀要』第13号)
- 1981年 11月 堀江珠喜『『禁色』と『ドリアン・グレイの肖像』—比較詩論』(『The Edgewood Review』第8号, 神戸女学院大学院英語英米文学研究会)
- 1983年 11月 堀江珠喜「ワイルドの童話と三島由紀夫」(『The Edgewood Review』第10号, 神戸女学院大学院英語英米文学研究会)
- 1985年 3月 堀江珠喜『『禁色』と『ドリアン・グレイの肖像』』(『比較文学』第27号)
- 1988年 7月 先田進『『禁色』と『ドリアン・グレイの肖像』』(『人文科学研究』第6号, 新潟大学人文学部)
- 1990年 4月 井村君江「三島由紀夫の『サロメ』演出」座談『サロメ』と三島由紀夫 その舞台」(『「サロメ」の変容—翻訳・舞台』新書館)
- 1990年 5月 三島由紀夫「ワイルド論」(『ユリイカ』第22巻第6号)
- 1992年 4月 堀江珠喜『薔薇のサディズム』英潮社
- 1994年 3月 堀江珠喜「三島由紀夫とワイルド—滅びの美学」(日本比較文学会編『滅びと異郷の比較文学』思文閣出版)
- 1994年 3月 Horie, Tamaki. “Symbolic Stories of Narcissism: Wilde and Mishima”. (『英米言語文化研究』第42号, 大阪府立大学)
- 1986年 11月 澁澤龍彦『三島由紀夫おぼえがき』(中公文庫) 中央公論社
- 1997年 2月 鹿島茂編／三島由紀夫『三島由紀夫のフランス文学講座』筑摩書房
- 1997年 10月 佐藤秀明「三島由紀夫」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店)
- 2001年 1月 三島由紀夫／谷川渥編『三島由紀夫の美学講座』筑摩書房
- 2004年 3月 鈴木ふさ子「オスカー・ワイルドと三島由紀夫にとってのジャーナリズム」(『Ferris Wheel』第7号、フェリス女子学院大学大学院人文科学研究科英米文学英語学研究会)
- 2005年 3月 鈴木ふさ子「三島由紀夫との比較を通して」(『オスカー・ワイルドの曖昧性』開文社出版)
- 2005年 5月 鈴木ふさ子「三島由紀夫にとってのキリスト教—少年期における聖書を題材にした作品群を手掛かりに—」(『キリスト教文学研究』第22号、日本キリスト教文学学会)
- 2005年 8月 鈴木ふさ子「オスカー・ワイルドと三島由紀夫 「わがままな大男」と「酸模—秩序の幼き思い出」における〈花〉の象徴するもの」(秋山正幸・榎本義子編『比較文学の世界』南雲堂)
- 2005年 12月 武内佳代「三島由紀夫『暁の寺』にみるサロメ表象—月光姫(シンジャン)再考の

- 機縁として一」(『国文』第104号、お茶の水女子大学国語国文学会)
- 2006年4月 佐々木隆「書誌から見た昭和時代(戦前)のワイルド受容—三島由紀夫を中心に—」(『日欧比較文化研究』第5号、日欧比較文化研究会)
- 2006年6月 三島由紀夫『三島由紀夫文学論集』(Ⅲ) 講談社
- 2009年3月 高田一樹「支配をめぐる葛藤としての詩劇—三島由紀夫と『サロメ』」(『比較文学年誌』第45巻、早稲田大学比較文学研究室)

## (25) 比較文学

- 1956年3月 矢野峰人「秃木とワイルド」(『比較文学』南雲堂)
- 1956年3月 村松定孝「泉鏡花とオスカー・ワイルド—『天守物語』と『サロメ』との影響関係に就いての考察」(『近代文芸の研究』北星堂書店)
- 1961年11月 森安正識『芸術至上主義文芸』いぶき社
- 1968年3月 井村君江「佐藤春夫とオスカー・ワイルド—『田園の憂鬱』を中心に」(成瀬正勝編『大正文学の比較文学的研究』明治書院)
- 1971年4月 吉田精一編『日本近代文学の比較文学的研究』清水弘文堂書房)
- 1977年9月 井村君江「佐藤春夫の憂鬱」(三好行雄、竹盛天雄編『近代文学』有斐閣)
- 1978年3月 矢野峰人「秃木とワイルド」(『比較文学』南雲堂、増補改訂版)
- 1978年11月 剣持武彦編『島崎藤村—比較文学研究』朝日出版社
- 1985年10月 鈴木幸枝子「有島武郎・翻案童話「燕と王子」についての一考察—オスカー・ワイルドとの関係について」(『実践國文學』第28号、実践女子大学国文学会)
- 1987年5月 鏡味国彦『十九世紀後半の英文学と近代文学』文化書房博文社
- 1990年10月 饗庭孝男『日本近代の世紀末』文芸春秋
- 1993年7月 柴田多賀治『芥川龍之介と英文学』八潮出版社
- 1995年11月 中村真一郎『再読 日本近代文学』集英社
- 1997年4月 越川正三「『駈込み訴へ』、『如是我聞』と『獄中記』—太宰治とオスカー・ワイルドのキリスト観」(『太宰・漱石・モームの小説』関西大学出版部)
- 1997年6月 飯島耕一『日本ベル・エポック』立風書房
- 1997年10月 「オスカー・ワイルドと日本」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店)
- 2013年5月 井村君江「ワイルドと日本文学—谷崎潤一郎と佐藤春夫を中心に」、伊藤勲「ワイルドと日本の詩人達—ワイルド藝術の見えざる影」(富士川義之、玉井暁、河内恵子編『オスカー・ワイルドの世界』開文社)
- 2015年7月 佐々木隆「大正時代の文豪とワイルド」(佐々木隆『オスカー・ワイルド受容研究(前編)』多生堂)

